

世界には約8億人に及ぶ飢餓人口が存在する中、世界の食料安全保障に貢献するため、途上国において農林水産業への支援を通じた飢餓・貧困の解消を進めることが必要。

生産性向上に向けた研究・技術開発や 栄養不良人口削減のための講義・セミナーの開催等の取組により、途上国の飢餓・貧困削減に向けた対策を推進。

農林水産分野への支援を通じた飢餓・貧困対策の推進(例)

○アフリカのコメの生産性向上支援等

- 小規模コメ農家等の収入向上に資する生産技術や販売スキルの向上のための農業支援と、栄養に関する基礎的な知識向上を図る啓発活動を実施。



シートを導入した
コメの品質向上支援

○生産性向上に向けた研究・技術開発等

- アフリカにおいて食料及び換金作物として重要なマメ類(ササゲ)及びイモ類(ヤムイモ)について、高収量・高付加価値化ササゲの育種やヤムイモの増産技術の普及等により、生産性向上を支援。



ササゲ

○栄養不良人口の削減

アフリカ・アジア等の途上国において、地域の食品事業者や大学生等を対象に講義・セミナーを開催し、栄養改善に関する啓発を行い、栄養不良人口の削減に貢献。栄養改善事業推進プラットフォーム(NJPPP)とも連携し、日本企業の知見や技術、経験を活用。



栄養改善キックオフ
ワークショップの様子

食品事業者等による栄養改善の国際展開推進事業

【事業概要・目的】

アフリカ・アジアの途上国において、現地の食品事業者等に対する栄養改善に関する啓発を、日本の食品事業者等の協力も得て支援することにより、栄養不良人口の削減に貢献。

背景

- ✓ 約8億人の人々が慢性的な低栄養状態。最低エネルギー必要量や必要な栄養素を満たすだけの食料を確保することができていない。
- ✓ 20億人がビタミンとミネラルの欠乏等の栄養不良状態。

健康・医療戦略

(平成26年7月22日閣議決定)(抄)
(前略)日本の優れた栄養強化食品などの研究開発力をいかし、新興国・途上国を含む各国の栄養改善のため、官民連携を通じた包括的(インクルーシブ)ビジネスを含む事業の国際展開を進める(後略)

事業内容

「栄養改善とフードバリューチェーン」 講座・セミナーの開催

- ✓ 現地の食品事業者等を対象に、実態に合った“生きたカリキュラム”を作成し、講義・セミナーを開催。
- ✓ 作成したカリキュラムをベースに、実施国以外も活用可能なeラーニングシステムを構築。
- ✓ 栄養改善事業推進プラットフォーム(NJPPP)とも連携し、日本企業の知見や技術、経験を活用。

期待される成果

- ✓ 現地の食品事業者等の栄養改善の推進により、アフリカ・アジアにおける栄養不良人口の削減に貢献。
- ✓ アフリカ・アジアの国々での栄養に関する意識の向上を図り、我が国食品事業者が現地で栄養改善の取組を行う環境整備を推進。



日本国

拠出金



国連食糧農業機関
(FAO)